じんせい

豊田邦江　細木病院看護部長

SOCIAL MEDICAL CORPORATION JINSEIKAI　社会医療法人仁生会細木病院グループ情報誌

2021（令和3）年
7
No.415

創立75周年記念

仁生会 細木病院グループは創立75周年を迎えました！

社会医療法人仁生会 理事長　細木 秀美

令和３年７月１日で、仁生会細木病院グループは、創立 75 周年を迎えました。

昭和 21 年に、創始者、細木高行が第２次世界大戦の激戦地ビルマ（現在のミャンマー）から九死に一生を得て帰国し、高知市西町に小さな細木診療所を開設したのが仁生会のルーツです。昭和 30 年に細木病院となり、昭和 33 年に医療法人へ変革し、昭和 50 年に三愛病院を開院、昭和 53 年には細木病院は 600 床を超す病院となりました。その後、平成 12 年には、日本医療機能評価機構から認定されました。特定医療法人となった後、臨床研修指定病院、第２次救急病院、高知県へき地医療支援病院となり、平成 27 年、社会医療法人となりました。

患者さんには、細木病院にかかってよかった。地域には、細木病院があってよかった。そして、一緒に働く職員には、細木病院で仕事ができてよかったと言われる病院を目指しています。

初代理事長 細木高行

2代理事長 細木秀美

一昨年、愚息が細木病院へ帰って来て、昨年６月に「ほそぎハートセンター」を開設し、循環器内科専門医５名を揃えて、心筋梗塞の急性期治療から、高齢者の心不全の方のリハビリテーションまで、幅広く県民のニーズに適切適時に対応できる病院を目指しています。

24 年後の 2045 年には、高知県は全国一の最少人口の県になることが見込まれています。県民の大部分が高知市に住むようになり、地方は過疎が進みます。病院での診療も、遠隔診療が広がって、患者さんは自宅にいて、自動運転の車が患者さんのご自宅まで出かけて診察し、それを病院で医師がチェックして、診察する時代が来るでしょう。もちろん、入院が必要であれば、すぐに救急車で病院へ運ぶことになります。看護も介護も、多くがＩＴ化されて、ロボットが活躍していることでしょう。ただし、どんなにＩＴ化が進んでも、温かい人の心がなければ、病人の癒やしにはなりません。細木病院グループは、そのような将来を夢見て、100 周年に向けて、気持ちを新たに羽ばたきたいと思います。スタッフの皆さんの、これからのご活躍を祈っております。

創立75周年記念 日めくりカレンダー作成!!

創立記念の「日めくりカレンダー」は、これまで、60 周年（壁掛け型）と 65 周年（卓上型）の際に作成しましたが、このたび、壁掛け型でリニューアルしました。今の私たちにとって大変役立つ格言等を日々載せています。年月は入れていませんので、これから先、何年も使用することができます。なお、現在では不適切とされる表現は、多少アレンジしていますのでご理解願います。

創立75周年記念

75周年、そして80周年に向けて

社会医療法人仁生会副理事長
細木病院副院長・ハートセンター長
細木 信吾

2021 年 7 月 1 日、細木病院グループがめでたく創立 75 周年を迎えることができました。これはすべて、当グループをご利用いただく患者さん、日々一生懸命働いてくれている職員の皆さん、当グループに携わっていただいたすべての方々のおかげと、深く感謝申し上げます。

当グループは、祖父が起業し、父が育て守り、高知県でも有数の病院として地域医療を担ってまいりました。私は、2 人の背中を追って医学の道に進み、令和が始まる 2019 年に細木病院に入職、2021 年から副理事長、副院長を拝命し、このたび創立 75 周年を迎え、身が引き締まる思いです。

逆算しますと、創立 30 年頃の私の幼少期には、正月は仁生会本部で、勤務されている先生方や病院幹部の方々を招いて皿鉢料理を囲んで盛大に酒盛りをするのが恒例で、その場でお年玉をいただくとともに皆さんと顔見知りになることができました。

今、当時の先生方は、茶毘に付された先生もいらっしゃいますが、当院に勤務されている先生、外来に元気なお顔を見せてくださり、昔と変わらず「信吾君」と呼んでくださる先生もいらっしゃいます。私の外来に通っているご高齢の患者さんの中には、祖父や祖母のことを懐かしく語ってくれる患者さんもおり、当時に思いを馳せながら仁生会の歴史を感じています。

細木病院の外で長く働いておりますと、当グループのさまざまな噂が入ってまいります。幸いと悪い噂はなく（私に気を遣っているのかもしれません）、細木病院は、『地域に根付いたアットホームな病院』というのが、幼少期から変わらない私の当グループのイメージです。これからもこのイメージを壊すことなく、昨年立ち上げた『ほそぎハートセンター』のエッセンスも取り入れながら、常に地域の皆さんの声に耳を傾け、患者さんに選んでいただける病院であり続ける所存です。

コロナ禍が明けて、晴れて 80 周年が迎えられるように、職員一丸となって明るくコツコツと頑張ってまいります。これからも細木病院グループをごひいきいただきますよう、末永くよろしくお願い申し上げます。

社会医療法人仁生会・細木病院グループの歩み

昭和 21(1946) 年	細木高行が細木診療所開設
昭和 30(1955) 年	細木病院に改組
昭和 33(1958) 年	医療法人仁生会細木病院となる。 細木高行理事長就任
昭和 39(1964) 年	土佐准看護学院開校
昭和 49(1974) 年	有限会社積善会設立
昭和 50(1975) 年	三愛病院開院
昭和 54(1979) 年	院内報「飛鵬」創刊
昭和 61(1986) 年	細木高行理事長の急逝に伴い、 細木秀美が仁生会理事長・細木病院院長に就任
昭和 62(1987) 年	情報誌「じんせい」創刊
平成元 (1989) 年	仁生会マーク及び仁生会憲章を作成 仁生会ＯＢ会「仁生クラブ」発足
平成 5 (1993) 年	土佐准看護学院を土佐看護専門学校へ変更
平成 7 (1995) 年	老人保健施設あうん高知開設
平成 8 (1996) 年	日高クリニック開院 仁生会創立 50 周年記念式典
平成 9 (1997) 年	細木ユニティ病院開院
平成 14(2002) 年	仁生会が特定医療法人となる。 社会福祉法人ミレニアム設立
平成 15(2003) 年	アドレス・高知開設
平成 18(2006) 年	仁生会創立 60 周年記念式典
平成 20(2008) 年	サービス付き高齢者向け住宅 イチゴいちえ開設
平成 21(2009) 年	福寿園がミレニアムに民間委託
平成 22(2010) 年	土佐看護専門学校閉校
平成 23(2011) 年	仁生会創立 65 周年記念 市民公開講座開催
平成 27(2015) 年	仁生会が社会医療法人となる。
平成 31(2019) 年	細木病院と細木ユニティ病院が再統合
令和 2 (2020) 年	ほそぎハートセンター開設

創立75周年記念

創立75周年に思う

細木病院元名誉副院長（小児科）
仁生クラブ会長
濱田 義文

初代理事長の細木高行先生が、高知市西町に細木診療所を開設されたのは、昭和21（1946）年７月であった。その後、昭和33年には細木病院となり、診療科も外科、整形外科、精神科が設けられ、昭和47年８月には小児科も加わった。当時の医師数は、内科３名、他の診療科はいずれも１名で、総勢７名であったが、よく働いた。

内科は、外来診療のほかに多数の往診を行っていた。先を急ぐあまり、同行した看護師を往診先に置き忘れることもあった。手術は、外科、整形外科の２人が協力し、麻酔医は院外からであったため手術の開始が遅く、終了は夜半を過ぎることも多かった。しかし、翌朝の診療は、平常どおりに始められた。小児科も、外来、入院はもちろん、当時少なかった未熟児養育医療機関の役割を果たしていた。そのため、深夜、早朝に呼び出されることもまれではなく、365日24時間勤務のような日が続いていた。このように医師が存分に働けたのは、厳しい勤務状況の中で、私たちを支えてくれた看護師ほか職員の協力があったからである。前理事長もこれに応えて、昭和55年から、当時はまだ少なかったハワイ旅行を、永年勤続者にプレゼントするようになった。

平成７年２月、病気の子どもを家に残して仕事に出かけるお母さんを思い、院内で病児保育を始めた。その後、高知県の要請、高知市の委託を受けて、対象を高知市内の全乳幼児に拡大した。

平成８年12月には、仁生会創立50周年を迎え、京都大学総長（当時）の井村裕夫先生による「いまをどう生きるか―高齢化社会の人間の生と死」の講演と、わが国最高峰のバス歌手で、テレビ、ラジオでも有名な岡村喬生さんの歌とトークがあり、感銘を受けた。

平成12年５月、日本医療機能評価機構から、病院の理念、地域ニーズの反映、医療と看護の質などについて、同機構の認定基準に達していると評価された。理事長も「当院の医療の質が全国的に見て妥当なものであると分かった」と喜ばれた。なお、この評価は、その後も５年ごとに行われているが、現在に至るまで継続して認定を受けている。

平成13年７月、私は、30年間勤務した細木病院を退職し、病院を外から見ることになった。３名で始まった内科は、現在、総合診療科をはじめ呼吸器、糖尿病、内視鏡センターなど多くの専門科に分かれ、さらに、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、放射線科、歯科など幅広く診療を行っている。また、医師数も全診療科で50名を超している。

令和２年６月には、ほそぎハートセンターが開設された。ここには、皮膚の表面から血管の状態が分かる経胸壁心エコーがあり、また従来開胸手術が必要であった心筋梗塞や狭心症を、血管内へ挿入したカテーテルで治癒させることも可能になり、入院期間も２週間から３日に短縮された。

私の小児科人生の半ばを過ごした病院が、75周年を迎えたことを心から喜ぶとともに、100周年に向かって、さらに発展を続けるよう祈っている。

平成3年当時の細木病院医局スタッフ（「じんせい」第61号より）
前列左から、濱聡内科部長、岡部健一郎精神神経科部長、多田一義整形外科部長、葦原作治副院長、細木秀美院長、青山信彦副院長、仁尾裕内科長、安蔵英之輔精神神経科長、後列左から、長町恵磨外科長、北岡和雄整形外科長、北村宗生外科部長、北川隆夫内科長、小林知子内科長、橋村金重精神神経科長、田口浩資郎精神神経科長、松田勇蔵内科長、瀬川進麻酔科長、濱田義文小児科部長（役職はすべて当時）

創立75周年記念

仁生会三愛病院と私　むかしむかし…

三愛病院内科長　中川　治

昭和 35 年父の転勤で中村から高知へ引っ越してきました。住まいは旭地区の赤石町でしたので細木病院のある西町周辺は生活圏ではなく、そのあたりの記憶はありませんでしたが、ある時突然、こげ茶色の高層ビル（当時の高知では）が出現し、大変驚きました。記録では、昭和 41 年、高校 3 年のことだったようです。それが仁生会細木病院との初めての出会いでした。

昭和 49 年、現理事長の細木秀美先生と同じ岡山大学第三内科に入局し、国家試験の発表前から指導医の先生のもと、当時、特別室に入院されていた理事長のお母さまを担当させていただきました。5 月の国試合格のお祝いに、お母さまからいただいた真珠のタイピンは、今でも改まった席には必ず着用しています。

昭和 55（1980）年 7 月、お話があり、三愛病院にお世話になることとなりました。当時の内科常勤医は、細木秀美先生一人でしたので、着任翌日よりフル稼働で仕事をしたように記憶しています。

前理事長の細木高行先生は、大変趣味の多彩な方だったとお聞きしていますが、中でも錦鯉の飼育は日本一と言っても過言ではなく、昭和 57 年にフジタロウ（オス）がギネスブックに最も高価な鯉として掲載され、昭和 60 年にはハナコ（メス）が総合日本一を獲得し、仁生会の医局もお祝いの席にお招きいただきました。話は遡りますが、私が着任して間もなく、前理事長のお宅に一家でご挨拶に伺いましたが、幼稚園の年少だった次女が、たくさんの泳いでいる鯉を見て「おいしそう」とのたまったのです。前理事長がすかさず笑顔で「食べなよ」と返され、私ども夫婦は顔から火の出る思いでした。

昭和55年当時の三愛病院（「飛鵬」第3号より）

今は知っている職員も少なくなりましたが、30 年ほど前まで、昔の国道の南東側に 2 階建ての古い三愛看護婦寮がありました。そこで毎年忘年会が催され、私も（おそらく当時外科におられたＴ先生も）呼ばれて参加していました。寮生は結構酒豪が多かったのですが、ある年、帰ろうとすると戸が開きません。引き戸だったと思いますが、しっかりとガムテープで目張りしてあるのです。剥がし終えるのに一苦労でした。その年が寮での忘年会に参加した最後の年になりました。

昭和 60 年 10 月、一宮・布師田地区を竜巻が襲いました。三愛病院の周りの銀行や県交通営業所などが軒並み被害に遭い、車も溝に落ちたりしていました。わが三愛病院も巻き込まれ、改築前の南側の分厚い窓ガラスが割れ、入院ベッドが浮き上がったということでした。天井も落ちてきて、病室はほこりでもうもうとなったそうです。ちなみに、これを身をもって体験された方が現在アドレス高知で勤務されています。また、住宅の被害に遭った職員の方もおられました。屋根が吹き飛ばされて空が丸見えになったそうです。今は故人となられましたが、大変愉快で明るい方でした。

平成 7 年には、老人保健施設あうん高知が開設。三愛病院も何回かの改築増設により、今の体制と規模となりました。

最後になりましたが、現理事長の得月楼での観梅を兼ねた厄落としも忘れられない思い出です。

創立75周年記念

仁生会創立75周年に寄せて

細木病院名誉副院長（整形外科） 北岡 和雄

仁生会細木病院の創立 75 周年を迎え、私自身勤続 39 年になります。

就職当初にさかのぼって思い起こしてみますと、昭和 56 年 12 月、初代院長の細木高行先生が横浜に来られ、「飛行機が苦手で夜行列車で来たが、是非うちの病院に来てくれないか」（若造のためにはるばる夜行で……）。大変恐縮しながらも嬉しく思い、翌年 6 月に郷里の細木病院に赴任しました。

当時の病院は、6 階建ての本館ビルが威容を誇るものの、新館やハートセンター、管理棟、タワーパーキングはなく、増改築前の古い北館と南館、木造 11 病棟（現新館）が散在していました。医局は本館 4 階にあり、こじんまりとした部屋に 10 名ほどの医師が机を並べ、片隅に囲碁、将棋愛好者用のソファが置かれていました。先生方は皆気さくで昼食時には談笑し、仕事や趣味の話などさせていただいたことを思い出します。

仁生会は、初代院長が県下に名高い働き盛りの先生を次々に招聘し、いわゆる第一世代の先生方の大活躍が病院発展の基礎となっています。二代目院長の細木秀美先生（現理事長）は、時代を見据えた鋭い経営感覚でハードとソフト両面での充実を図り、その改革思想はその後の歴代院長に引き継がれています。

平成 25 年 2 月 4 日の細木高行胸像除幕式で挨拶をさせていただきましたが、その一部を再現します。

「現在の細木病院の礎を築かれた、天国にお住まいの第一世代の先生方が、この厳かなセレモニーを眺めておられます。主役の高行先生は『もうチョイ男前のはずぜよ』と不満を言いつつほくそ笑んでいます。濱先生は『上等ぜよ、よう似いちゅう、贅沢いいな！』と茶化し、そのそばでは、青山先生がニヤニヤ、葦原先生はむっつり、多田先生はニコニコして眺めておられる、そんな光景が浮かびます」

細木病院の整形外科は、平成 4 年より高知大学整形外科教室から医師が派遣され、現在まで 27 名が在職しています。諸先生方は現在、開業医、勤務医あるいは大学幹部として活躍されており、当科における病診、病病連携の核をなしています。

私も、平成 26 年から常勤嘱託医として 8 年目になり、疲れを感じることもありますが、元気なうちは若い先生方のお手伝いをさせていただこうと思っています。

今や仁生会は診療科目も増え、医局や設備がますます充実し、若い専門医による医療が可能になっています。仁生会のさらなる発展と、患者さんに親切丁寧で優しい病院であり続けてほしいと願っています。